

- 管内** 上川管内
■分類 避難訓練 危険対応能力 防災訓練 その他()
■教育課程 教科() 道徳 総合的な学習の時間 特別活動
■校種 小学校(低) 小学校(中) 小学校(高) 中学校 高等学校
■取組のポイント

- 総合的な学習の時間における防災意識を高める指導の実施
 近隣の活火山の噴火を想定したDIG(図上訓練)の実施

■取組の実際

ねらい

自然災害等の危険から自らの命を守ることができるよう、地域の安全に関する知識を身に付けるとともに、的確に判断し迅速な行動を取ることなどの危険対応能力を育成する。

内容

1 地域の災害の現状についての学習

防災についての正しい知識を身に付け、災害時に主体的な行動ができるよう、総合的な学習の時間における地域の災害の現状についての学習を通して、生徒の防災意識を高めている。

単元の導入時に実施した生徒アンケートでは、「ハザードマップが自宅のどこにあるかわからない」と回答した生徒の割合が6割であるなど、防災に関する危機意識が低いことが明らかとなった。また、近隣にある活火山について、半数以上の生徒が認識していない状況であった。

このことから、近隣の活火山の活動歴や現在の状況の調査や整理・分析、地域のハザードマップを活用した地域の危険度の確認などの学習を通して、地域の災害に対する知識を身に付けさせた。



【地域のハザードマップ】

2 DIG(図上訓練)を活用した学習

本校では、DIG(図上訓練)を取り入れており、生徒がグループごとに地区の高低や川の配置を調べ、「避難場所」や「避難経路」、「避難のタイミング」について考えた後、グループによる発表や交流を行っている。こうした活動を通して

生徒は、地域の地形や火山などの特徴を考慮した避難行動についての考えを深め合うなど、防災意識を高めている。



【発表の様子】

- ① 避難拠点の確認
- ② 火山災害時の避難場所の確認
- ③ 各自の避難場所の決定
- ④ 避難場所の選定理由の確認
- ⑤ 「美瑛川」の確認
- ⑥ 「泥流の危険域」の確認
- ⑦ グループでの避難場所の決定
- ⑧ 避難経路の確認
- ⑨ 避難場所と避難経路の選定理由の確認

【DIGにおける学習内容】

成果と課題

- 地域のハザードマップや近隣の火山の現状、地形の特徴などを考慮した避難の仕方などについて、主体的に考えさせる学習を行ったことにより、生徒の災害に対する知識や防災意識を高めることができた。
 災害に対してより一層具体的に考えさせるために、専門的な機関や地域と連携し、フィールドワークや災害の模擬実験などの体験的な学習の実施を検討する必要がある。